

NAET JAPAN事務局から

医療従事者の皆さんへのお願いと患者さんへのお知らせ

昨年11月から中国で拡がりはじめた新型コロナウイルスは、この約半年であつという間に世界中に拡がり、国内でも患者数・死亡者数の増加、および世界の医療現場における緊迫した状況も連日報道されています。得体のしれないウィルスに対する恐れ、いつまで続ければ済むのかわからない自粛生活に対する不安と焦りにどなたも疲れが出はじめていることと思います。

こんなときだからこそ、例えどんな状況になろうとも、『家族と仕事を守るためにも、まずは自分自身を第一に考え、行動する』という軸（思考の物差し）をぶらさないことが大事です。

今これを読んでいる方の中には、明日を生きることすら辛く思える人も、もしかしたらいるかもしれません。辛いのは一人だけじゃありませんから、お互いに支えあいながら、もうひと踏ん張りしていきましょう。とにかく何でも一人で抱え込まないことです。自分一人ですることには必ず限界がありますから。

それでもどうしてもないときは、「あおいくま」（あせらない・おごらない・いばらない・くさらない・まけない）を胸に、心・体・お金など、自分の問題に対する専門家の助けや知恵を必ず借りてください。必ず解決策はあります。辛い時こそ頑張らない、けど焦らず諦めないことです。

反省はしても後悔しないような生き方を貫けるたくましい心と身体を創り上げ、自分が生きたいように生きることを実現させるのがNAETを使う施術者の仕事です。お近くのNAET 施術者に遠慮なくご相談ください。我々にできることも何かあるかもしれません。

大都市圏では医療崩壊を現実的に目前とする中、いかに新型コロナウイルスに罹らないように、そして罹ったとしても軽症で済ませるための対策が重要になります。『重症化させない』それが今一番大事なことです。

エネルギーメディスンにおける感染源に対する考え方は、どんな感染源に対してでもアレルギー（反発）がなければ『感染しにくく治りやすい』、逆に感染源に対するアレルギー（反発）があれば、『感染症に罹り易く、治りにくい』のです。ですから、自分の持つエネルギーが感染源に反発していなければいいのです。

ですからこの状態に不安や危機感を感じているものの何も自発的にしていない人、そして何か自分にできることはないかと思ってる方は、ぜひすぐにでも行動にうつしてください。

具体的に何をすればいいかというと、弱アルカリ体質を維持するために自分の生活を見直すとともに、感染源に対するエネルギーの反発（NAETではこれをアレルギーと呼びます）を取り除くのです。

エネルギーの反発は、クリニックでの施術、もしくは外出自粛下においては、ゲートマッサージと呼ばれる自己管理法にて取り除くことが可能です。

ウィルスに対するアレルギー除去（エネルギーの反発を取り除く施術）を希望される患者さんは、施術可能な施術者が近くにいないかどうか探してみてください。ご自身でわからない場合は、NAETJAPAN事務局までお問い合わせください。

話はそれますが、感染源に対する施術結果は良好で、NAET インドでは、医師でもあるシスターが中心となって、孤児院にてエイズ陽性の子供達を施術、陰性にした後、養子縁組を進める活動も行っています。NAET インドでは、子供達への寄付をいつでも受け付けておりますので、NAETJAPANへご連絡ください。

NAETの施術コンセプトは、自分と森羅万象のエネルギーを調和させることです。

そのうえでバランスの取れた食事をきちんと摂り、それでも足りない栄養素（特に日本は軟水なので微量ミネラルは不足しがちです。また個人個人の食生活習慣によっても異なります）を補うことで、心身を構成・機能させるための栄養素が確実に消化・吸収され、細胞が栄養素を使えるようになります。

その結果として、エネルギー的不調和からもたらされる様々な不快症状や病態を解消し、いつ・どこで・誰と・何をしても、または何をしなくても、肉体的・精神的・社会的に問題のない生活を送ることが誰にも可能となります。

NAETを現在実践されている施術者の皆さん、そして過去に受講された医療関係者の皆さん、

ぜひ自分と家族を守るために、そして自分のところに来てくださる患者さんの安全を確保するために、個別ウィルスや唾液を用いた施術を確実に提供してください。

ウィルスに対しては、まず初めに唾液に反映されますから、Dr デビからのメッセージを参考に、患者さんに唾液を使った自己管理法を、毎日帰宅後、および適宜気になるときに行うよう指導してください。そして、いつ、誰が、どこで、誰にウィルスを移していくのかわかりませんから、指導したことを自分の周りにいる、まだ知らない人にも伝えていただくようお願いしてください。

NAETをご存知の先生方は、まだご存じない施術者がいれば、唾液を用いた自己管理法をお伝えください。その先生は自分と自分の家族、そして自分のところに見える患者さんに自己管理法を教えてください。

見えないウィルスは知らない間にどんどん拡がり、いつ自分や自分の大事な人の前に現れ、危険にさらされるかもしれません。

この日本において、そして世界においても、一人でも多くの方がNAETの唾液を用いた自己管理法を日常生活に取り入れることで、ウィルス拡散のブレーキになってくれることを望み、その効果を期待しています。

医療従事者の皆さん、そして保健業務に関わる皆さん、

大都市圏で医療・保健業務に携わる人を守ることは、医療崩壊を少しでも食い止める策となるはずです。無休で心身ともに疲弊していれば、必ず医療者自身が感染し、少ない人数で患者を診なければいけません。また休校措置により子育て世代の医療従事者が働きたくても働けない、という状況を生みだします。このような人員確保が叶わない医療現場においては、医療崩壊は時間の問題です。

そのために市民である私たち一人一人にできることは、とにかく感染しないことです。自分は大丈夫という過信は捨て、以下①②の中で一つでもできることを実践し、とにかく感染しないための努力を続けること。それが自分と家族、そして病院で働く医療従事者と社会システムを守るための第一歩になるはずです。何事に対しても絶対と言い切れるものはありませんが、それでも備えあれば憂いなし。そのために無理なくできることを自発的に取り組む姿勢が、生きていくうえで反省しても後悔しない秘訣だと思います。

現実的な問題として、医療者自らが、家族と仕事、同僚・患者を守るためには、まず自分を守れなければいけません。十分な休養と栄養が確保できていないであろう現場において、自分を確実に守りきるための自己管理法として、業種の垣根を越えてNAETを取り入れ、感染回避・予防策として活用していただけることを心から願います。手洗い・うがい・マスク・サプリメント・祈り・瞑想だけでは、ウィルスから逃げ切ることは難しいはずですから。

NAETにご興味のある医療系国家資格保持者は、現時点において、英語のオンラインセミナーを受講することが可能です。（オンライン日本語版は2021年度開始予定）詳細はNAET本部サイトをご参照ください。やらずに後悔するより、やって後悔したほうがいい、今放映中の朝ドラでもよく耳にする言葉です。

NAETを現在受けている患者さん、そして過去に受けている患者さん、

最低限の基本項目の除去が済んでいれば、担当施術者にウィルスに対するアレルギー除去を優先的に施術してもらって下さい。その他、細菌・カビ・寄生虫などの感染源も併せて施術しておかれるといいでしょう。必要に応じてさらに具体的な感染源に対する施術も進めておきます。

そして日々の生活において弱アルカリ体質を維持するための自己管理方法を実践し、毎日自己体液（まずは唾液）での自己管理法（ゲートマッサージ）を行うことで、その日にももらったかもしれないウィルスを、その日のうちにエネルギー的に排除しておくことが大切です。そのうえでさらに施術毎にウィルス反応の有無を確認してもらい、追加施術の必要性があれば、追加してもらって下さい。

特に大都市圏に生活し、毎日不特定多数の中を移動し、密閉・密集・密接空間に身を置かなければならない人は、この状況において、自分がハイリスクであることは当然理解できていると思います。このような状況における危機管理として、常に最低限の情報で最悪の事態を想定し、自分にできる対策を積極的に取り入れていただき、先ず一人一人が自分と家族を守ることに集中しましょう。

どなたも「すでに自分はウィルスを持っている」という前提の元、以下に示す【①自分と他人を危険にさらさないための行動】、そして【②生活管理の徹底】を、皆さんには心よりお願いしたいと思います。

【① 自分と他人を危険にさらさないための行動】

- ・体の土台となる基本的な栄養素のアレルギー除去が済んだら、ウィルスやその他感染源に対するアレルギー（エネルギーの反発）を除去し、毎日自己唾液による自己管理法（ゲートマッサージ）を朝・晩、適宜行う。唾液以外の体液を同様に自己管理法として使うこともできる。
- ・密集・密接・密閉を避けるのは、大事な人と自分、そして他人を守るための義務と考える。
- ・夕食は早め、もしくは軽めとし、十分な睡眠を確保する。毎日の飲酒・喫煙は感染リスクを何倍にも上げてしまうため、自制する。できない場合は、酒・タバコ依存に関連したアレルギー除去を勧める。（蒸留酒であっても内臓へのダメージをもたらすアルコール成分は同じですから、糖質が多い醸造酒はさらに負荷がかかると考えますが、アルコール成分としてはみな同じと考えます。）
- ・いつもと違う感じがすれば、「自分は感染している」と常に最悪を考え、いったん立ち止まる。
- ・毎日血圧・体温・脈拍などのバイタルサインを測定し、不快症状（発熱・倦怠感・感覚異常など）があれば、大事をとってまず休み、その日の経過で翌日以降を判断する。
- ・発熱している場合は、まず発熱者相談窓口連絡する。
（一般的に 37 度台は真菌性、38 度台以上はウィルス・細菌性のことが多いです）
- ・最低限の外出とし、外出時不特定多数と関わる場合は、マスク（必要時手袋）着用とする。
- ・いかなる外出であっても、帰宅後はすぐに手を洗い、唾液での自己管理法を行っておく。
- ・大都市圏の人の他県への移動は極力控えるのが好ましい、引っ越しの場合、待機期間を十分に（約 3 週間）おく。ただし、アレルギー除去している場合は、この限りではない。
- ・家族・親戚の集まり、特に大都市圏の人が含まれる場合は、終息するまで延期とする。

【② 生活管理（衣・食・住）の徹底】

- ・引き算；糖質・脂質・酵母・電磁波・ストレス/過労
- ・足し算；タンパク・塩+カリウム・食物繊維・炎症を抑える油脂（えごま・亜麻仁油）・睡眠・ご褒美
- ・弱アルカリ化；重曹クエン酸水；3~4 回/日（朝一番尿にて PH 確認）
サプリメント補給；ビタミン C サプリ 2~4g/日、またはそれ以上
トレースミネラルサプリ、カルシウム、ビタミン D3、鉄、グルタチオン
プロバイオ；乳酸菌/ビフィズス菌/酪酸菌/サッカロマイセス・ブラウディ、グルタミン
- ・温活；ヒートショックプロテイン入浴法（週 1~2）、大量発汗後は十分な水分・塩分・ミネラルを補給
- ・放電；自宅・職場のアーシング対策（睡眠中・仕事場・台所など）
- ・口腔内真菌対策；国際歯周内科学研究会の歯科医院、マウスケア

*②の詳細に関しては、NAETJAPAN 事務局でもある、増田カイロプラクティックセンターのウェブサイトをご参照ください。